

# 26L-am05

手術室における使用済注射薬管理システムの構築

本田 雅巳<sup>1</sup>, ○越川 千秋<sup>1</sup>, 秋枝 幸房<sup>2</sup>, 大隈 恵治<sup>3</sup>(<sup>1</sup>獨協医大病院薬,<sup>2</sup>ソルブ,<sup>3</sup>オオクマ電子)

【目的】医師、看護師等が本来の業務を行えるよう支援する目的で開発した機械を用い、手術時に使用した注射薬を機械的に認識することにより、手作業で行っている使用薬剤記載業務、薬剤師が手術処置表から集計する業務及び事務員がコスト表から入力する業務を合理化することができるか検証する。また、手作業による集計と機械での集計を比較し請求漏れの有無を検証する。

【方法】10月1日～7日に実施された手術で使用した注射薬を患者毎に、手術終了後に看護師が機械設置室まで持参した。同時に施用日、患者ID、手術室番号を記載した用紙も持参した。持ち込まれた注射薬を機械で読み取り、機械の信頼性及び請求漏れの有無を調査した。A：機械でカウントしたデータ B：人間が手作業でカウントしたデータ C：看護師が手術中に作成した手書きのデータ（コスト表）請求漏れはAとCの比較で検証した。また、手術室の看護師、薬剤師及び医事課事務員の業務量について、実測及び聞き取り等により調査した。

【結果】1) 使用済み注射薬に関する作業時間 手術室：3時間44分/日（コスト表への記載時間）薬剤部：1時間/日（集計時間）医事課：1時間30分/日（電子カルテ入力時間） 2) 手術患者数と使用注射薬数 手術患者数：165名 使用注射薬：3,557本 3) 集計漏れ 機械による集計と手作業による集計では金額にして50万円強の差がでた。手作業による集計に漏れが多かった。手術時間の長い心臓外科や脳外科の手術および時間外の緊急手術では特に請求漏れが多かった。

【考察】手術件数は、病院収入に大きな影響を及ぼす。したがって手術に使用した薬剤を適正に保険請求することは病院経営にとって欠かせない。人間が行なっている業務を機械が行なうことで請求漏れの防止と業務時間の短縮が可能となる。